

視 察 報 告 書

報告者氏名 野村 誠、戸辺 滋、岡 明彦、桑畠 伴子

1 会派名

公明党

2 期 間

令和7年1月21日（火）、令和7年1月22日（水）

3 観察地

- ① フリースクール流山（1月21日）
- ② よりそいサポートセンター（1月22日）

4 所感等

① フリースクール流山は、主に不登校の子どもや若者が安心して過ごせる居場所・学びの場で、6歳から23歳までの子どもが対象です。自分らしく成長できる場所として、子どもが安心して過ごす中からやりたいことが生まれ自信や自己肯定感につながっていく事や、子どもが自分から積極的に学ぶ探求型学習を奨励しており、音楽、美術・イラスト、工作、パソコンなど様々な活動が行われています。基礎学習はすべて、個別学習で子どもとスタッフとで話し合い約束したスタイルで行う契約学習スタイルを採用しており、子ども一人ひとりに合わせた授業カリキュラムとなっています。また、高校生は、フリースクールで活動しながら、高校卒業資格を取得することができます。同スクールは、子どもたちだけではなく、不登校の子どもを持つ親の会を定期的に開催され、親同士でお話しする場を提供されています。実際に通っている子どもにお話を伺うことができました。フリースクールへ通った日は、在籍校での出席扱いとなり、子どもの意見を尊重しながら学校との連携も行っていました。まずは子どもが安心して過ごせる場所があることで、やりたいことが見つかる。同年代だけでは

なく、幅広い世代の子どもたちと一緒に活動することで、社会性や人間関係も学ぶことが自然とできているように思いました。また、学校へ行けない子どもたちの居場所・学びの場を提供できる環境を整えることが重要と考える視察となりました。

②生きづらさ包括支援事業については、地域共生社会の構築に向け、市民への丁寧な周知に努めるとともに府内連携を強化し、困りごとを抱える市民や世帯に寄り添う支援体制を要望してまいりました。国が掲げる重層的支援体制整備事業を「生きづらさ包括支援事業」との名称で令和6年度より開始し、様々な困りごとを抱えている方が孤立することがないよう、地域全体でサポートする体制づくりを推進しています。今回、視察させていただいた「よりそいサポートセンター」は、生きづらさ包括支援事業の中の「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」と「参加支援事業」の2つの業務を流山市社会福祉協議会が流山市から受託し、その拠点を令和6年10月に流鉄の流山駅前に開設されました。施設には社会福祉士や精神保健福祉、保健師など専門職スタッフが配置され、これまで制度の狭間で支援の手が届きにくかった8050問題やヤングケアラー、ダブルケアなど、複雑化・複合化した悩みを抱える世帯を支援しています。今回の視察で、開設以降の相談状況や継続的な支援の在り方などをご説明頂き、今後も引き続き、支援を必要とする方々の相談に寄り添い解決へ導いていただくことを強く望みます。また、市民への周知に努めていただくとともに私たちも同施設を注視してまいりたいと考えております。